

病害ソリューションシート —シンジェンタからのおすすめ防除提案—

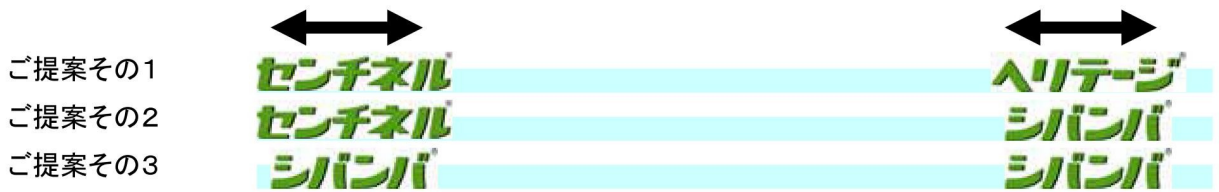
ラージパッチ以外にも春先の日本芝に発生する病害がいくつかあります。これらの病害は秋に感染して春に発病するため、秋に防除をしないと春の発生を防ぐことができません。

春先のラージパッチ以外の病害

発生時期と防除タイミング・年間ローテーションの提案

- 平地における発生の場合

病害	9			10			11			12			1			2			3			4			5		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
立枯病(ゾイシアデクライン)	黄	黄	黄	黄	橙	橙	黄	黄	黄										黄	黄	黄	橙	橙	橙	橙	黄	黄
疑似葉腐病(春はげ症)																			黄	黄	黄	橙	橙	橙	橙	黄	黄
葉腐病(ラージパッチ)	黄	黄	黄	橙	橙	橙	黄	黄	黄													黄	黄	黄	橙	橙	橙



黄 : 発病期
橙 : 発病盛期

- ラージパッチに効果があり、かつ他の病害にも効果が期待できる薬剤を選択することで晩秋の芝のきれいな冬落ちと春先の芝のきれいな立ち上がりが期待できます。
- ラージパッチ以外の病害(ゾイシアデクライン、春はげ症)が最も重要な場合は秋に処理する薬剤にセンチネル等を選択します。
- ラージパッチに重点を置き、その他の病害も同時に防除したい場合はシバンバ等を選択します。



ゾイシアデクラインの病徴写真

春はげ症の病徴写真

芝生用殺菌剤	EBI剤	メトキシアクリレート系	ベンゾイミダゾール系	シカルボキシイミド系	フェニルアמיד系	抗生物質殺菌剤	酸アミド系	ゲアニジン系	有機リン系	有機硫黄系	銅殺菌剤	接触型殺菌剤	その他成分	登録内容(グリーン農業総覧2008追補版より)			
製品名	ステロール生合成阻害	呼吸阻害	有糸核分裂阻害	胞子発芽・菌糸伸長抑制	RNA生合成阻害	キチン合成酵素阻害	呼吸阻害	膜脂質破壊	リン脂質合成阻害ほか	SH酵素阻害	酵素系阻害	保護作用	その他	立枯病(ゾイシアデクライン)	疑似葉腐病(春はげ症)	葉腐病(ラージパッチ)	
イカルガ35SC							チフルザミド									●	●
グラステン水和剤							フルトラニル						イソプロチオラン			●	●
グランサー水和剤									トルクロホスメチル							●	●
グランサー粒剤									トルクロホスメチル							●	●
グリーンエイト顆粒水和剤							ポリオキシンド亜鉛塩		トルクロホスメチル							●	●
グリーンオキシラン水和剤											有機銅	キャプタン				●	●
クルセイダーフロアブル	テブコナゾール													●		●	●
シバンパフロアブル	シプロコナゾール		アゾキシストロビン													●	●
シャルマツ水和剤			ペノミル				メプロニル									●	●
センチネル顆粒水和剤	シプロコナゾール													●		●	●
ターフトップDF			クレソキシムメチル													●	●
タフシーバフロアブル	テブコナゾール												ベンシクロン			●	●
チップイン水和剤				イプロジオン			バリタマイシン									●	●
トップグラスドライフロアブル			チオファネートメチル													●	●
トップバスター顆粒水和剤	メトコナゾール		チオファネートメチル													●	●
トライアンフ水和剤	フロビコナゾール						フルトラニル									●	●
バシバッチ水和剤	フロビコナゾール						メプロニル									●	●
パッチコロン水和剤	シメコナゾール															●	●
ブラウザー水和剤	フロビコナゾール						メタラキシル	フルトラニル								●	●
ブルーデンス水和剤				イプロジオン					ホセチル							●	●
ヘリテージ顆粒水和剤		アゾキシストロビン												●		●	●
ホーマイ水和剤			チオファネートメチル							チウラム						●	●
ポリオキシンド水和剤							ポリオキシンド亜鉛塩									●	●
ポリオキシンドドライフロアブル							ポリオキシンド亜鉛塩									●	●
モノクタジンフロアブル							メプロニル	イミノクタジン酢酸塩								●	●
ロブラールフロアブル				イプロジオン												●	●

「グリーン農業総覧」2008追補版 社団法人緑の安全推進協会刊より登録部分抜粋

防除のコツ

- ゾイシアデクラインは地際部～根部に感染している病害であり、春はげ症は地際部に感染している病害のため、薬剤をしっかりと落とします。刈高が低い場所は少水量散布で対応できる場合もありますが、刈高が高く密度が高いラフなどは薬剤を地際部に届けるために水量を多くすることをお勧めします。
- 一頭口フィールドジェット散布を避け、多頭口で粒径が粗いノズルを選択し、地面にたたきつけるように均一に散布します。
- 通常は年1回発生です。耐性菌の出現レベルも低いいため、薬剤ローテーションを過度に気にする必要はありません。

管理のコツ

- ゾイシアデクライン、春はげ症は乾燥条件を好むため冬期でもマウンドの頂上など乾きやすい場所は散水を行います。

ゾイシアデクラインは、砂質土壌のグリーンおよびフェアウェイにおける発生が多いです。なかでもマウンドになっている、風の吹き抜けるなどの乾燥しやすい場所で激しく発生します。また歩経路になる場所、常に機械の通り道となる所などストレスの加わりやすい場所にも発生しやすく、回復も遅れることが多いです。雨にあたるとパッチが赤く見えることが特徴です。

春はげ症も砂質土壌のグリーンおよびフェアウェイにおける発生が多いです。ただし春先の回復はゾイシアデクラインやネクロティックリングスポット病と比べても早く、2-4 週間で治ることが多いです。